

夜の観桜会事業

取組に至る背景・事業の目的

大桑村内に点在する観光資源の活用法のモデルと位置付け、村内各所にある花を活用した複合的な観光の推進に対する地域住民の協働と資源活用の機運を盛り上げる契機とし、併せて村の知名度向上に資することを目的とした。具体的には、見頃になっている樹齢 30 年程度の八重桜並木の利用を考えた。

木曾地方ではこれまでに規模の大きな夜桜イベントは行われておらず、また八重桜は開花期が遅いので、ゴールデンウィーク入りの頃に開催できる他所にはない特徴をアピールできる行事になることを期待した。

また、本事業終了後も毎年のイベントとしての定着を目指すこととした。

事業内容

大桑村スポーツ公園内の八重桜並木(約 70 本、150m)を利用して 2 日間にわたり夜桜まつりを行った。本事業は平成 24 年度から 3 年間で行われたものであり、最終年度の本年は、それまでに蓄積した資材の不足分の投光器等を補充してより明るくした桜のライトアップ(20W 相当 LED ライト 50 個)を行うと共に、村内飲食業者による出店(7 店)や文化団体等(8 団体)に出演を依頼して雰囲気盛り上げた。また本事業は他所との差別化を目的に写真のようなかがり火(20 台)と夜桜の競演を狙ってもおり、かがり火用の多量の薪割りや木製ベンチ作製の事前作業を 54 名の会員が手分けして行った。また、祭りの前後 1 週間、飾り付けた提灯 100 個に灯りを点した。



【水面に浮かぶ夜桜とかがり火】

事業効果

- ・本事業は、目的欄に記したように、村内独自の観光資源を利用したイベントを恒例事業化しようとしたものであり、本年度は 1,500 名程度の来場者で賑わった。
- ・会場の盛り上がりや来場者の賛辞によって、定例化に向けた手応えを確信できた。
- ・これまでに新聞各紙に掲載され、認知度は高まりつつあると思われる。
- ・労力提供は大変であったが、会員自身も楽しむことができた。
- ・30 年以上にわたってスポーツ公園内で開催される大桑村森の里の秋祭りと同時に開催される村内駅伝のゴールとなるトラックや同祭りの催し物ステージ周りを花で飾ろうという提案が会員からあり、菊の花 70 鉢程を春から育て、文字通り会場に花を添えた。これは本事業から派生した会員の意識の高揚であり、本事業の効果である。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・事業主体を、行政は全く関与しない会費制の住民団体として立ち上げたために、会員数の確保に苦労した。
- ・開始時点で、具体的な夜桜イベントのイメージを共有するために会員内で議論した。
- ・本事業は桜花を前提にしているため 4 月下旬には実行しなければならないという制約があり、事業採択決定前に開催の事前準備が必要で、そのためには村当局の理解を得ることが必須条件であったが、幸いなことに制度的な応援を得ることができた。
- ・活動を通じて会を維持するためには、夜桜イベント以外にも会員相互に知恵を出しあう必要がある。

【選定のポイント】

住民が主体となって 1 からイベントを立ち上げているところを評価。
会員、参加者が年々増加しており、今後の継続により、観光誘客になることを期待する。

団体名	大桑元気な会 (大桑村)	事業タイプ	ソフト事業・ハード事業
連絡先	0264-55-1020 早川孝	事業費	993,000円
		支援金額	728,000円